



先を急がず 一歩一歩着実に

車輪梅

<鹿島中学校 校歌だより>

[令和3年1月号]

《重点目標》『自立した品格を目指し 学び合い 認め高め合い 最後までやり遂げよう』

3学期スタート 成長の証を心に刻み 新年度を意識した生活を!

<第3学期始業式 式辞（抜粋）>

3学期に頑張ってほしいことを2つお話しします。

1 自分自身の成長の証をしっかりと刻む

今年度は、新型コロナウイルス感染の不安のある中での学校生活となり、これまで多くの行事が中止や延期になったり、さまざまな制限のもと規模縮小という形で実施されたりしています。そんな中でも皆さんは、伝統をゼロから創り上げようという意気込みで、輝響祭をはじめとする行事などでは、新しい試みに積極的に挑んできました。

この3学期には、それらの取り組みを通して「これができるようになった」「ここは頑張った」という自分自身の成長の証をしっかりと心に刻んでほしいと思います。厳しい状況のもとでも頑張り抜いたという経験は大きな自信となり力となるはずです。そのためには、年度初めに立てた自分の目標や学級の目標に立ち返り、目の前のこと今まで以上にしっかりと取り組むことです。まだ十分でないことがあればさらに力を注ぎ、満足のいく形で学年を終えることができるようにしてください。

2 3ヶ月後の自分の姿をイメージし、実現のための準備をする

3ヶ月後、3年生は中学校を卒業し、新しい制服に身を包み高校での晴れの入学式に臨んでいます。1・2年生はそれぞれ進級し、最上級生や中堅学年として新学期のスタートをきっています。

3年生が高校での入学式を迎えるには、今、粘り強く受験勉強に取り組まなければなりません。また、1・2年生が頼られる先輩や憧れられる先輩になるには、新入生を迎えてからでは間に合いません。学習や部活動などで4月に好スタートを切りたいと思うなら、今の準備が欠かせません。このように、3学期は、まとめの学期であるだけでなく、次の学年に進級するための準備の学期であり、志望校に入学するための勝負の学期でもあります。このことから、3学期は「O学期」とも言われます。この3学期から次の新しい学年が始まっているのだということを意識して学校生活を送ってほしいと思います。

自己肯定感を育む

新型コロナウイルスによる先行きの不透明感により、私達は日々不安を抱えて生活しています。この危機的状況を乗り越え未来を生きていくためには「自己肯定感」や「自分の未来を描く力」を高めることが求められています。しかし「自己肯定感」についての子ども達の自己評価は高いとは言えず、大きなテーマとなっています。

○自己肯定感とは？

現在、思春期にある子ども達が、大人になるということは「これこそ私の人生だ」と自分の人生を引き受け、責任を持てるようになることです。それは「自分は自分で大丈夫」という心＝「自己肯定感」に支えられて生きていくということです。思春期に自己肯定感を育んでいくことはとても大切なことです。

○大人は・学校は・保護者はどうしていったらよいか？

(1)「ほめる」より「気づく」

- ・成果や結果だけでほめるのではなく、親や教師にしか分からない子どもたちの小さな変化や努力、成長の過程にも注目し、そこに気づいて、子どもにそれを伝えていく。
- ・「自己肯定感」は無条件に自分自身を受け入れてくれる「安全基地」によって支えられる。

(2)「未来」ではなく「過去」を語る

- ・「こんなことでどうする」と未来への懸念を強調するのではなく、過去から現在までの間に「できるようになったこと」に注目したり、させたりする。
- ・家庭で、生まれた頃の写真や映像を見たり、話題にしたりして親子のスタート地点を確認する。学校で、入学時や春からの成長を思い起こす活動をしてみる。

(3)子どもの好きなものを追いかけて興味を持つ

- ・子どもが好きなものに親や教師が興味を持って話しかけてみる。
- ・興味が持てないものでも、知れば面白いし、子どもは聞くと喜んで教えてくれる。

(4)「子どもは社会の鏡」

- ・大人がイキイキとしている姿を見せていかないと、子どもはなかなか希望を持つことができない。
- ・子どもたちのためにも大人もまた、やりがいを持って頑張っていく。

